

火災危険地帯!

京に相次ぐ火事、放火
失ったものは永久に戻らない

今年に入って、火事が相次いでいる。全国で言えば、生きた人間に火を放って殺すという残忍な犯罪が、京都では美山町のかやぶきの里や寂光院の消失、裏寺町通での火災がニュースをにぎわせた。中でも目立ったのが放火による火災。東山ではくくり狼に放火するという悪質ないたずらも横行した。寂光院は本堂とともに本尊も消失。何物にもかえがたい日本の宝が、悪質な犯罪の犠牲になったのが非常に悔しい。

近年の日本の火災の発生原因はタバコの不始末に次いで、放火が2位。この現状は、どう考えても異常だ。人の命も物も、一度燃えてしまったものは二度と戻らない。過失ならまだしも、いたずらや怨恨などの悪意をもっての放火は極刑に値する。町家や寺社仏閣など、特に木造建築の多い京都。放火はもちろん犯人が責められるべきだが、犯人を罰しても失ったものは戻らない。我々は放火魔に狙われていると常に警戒しなければならぬのか? 悲しいけど、これが現実だ。

いまどきの歴史

一番新しい日本の一ページ

神の国内閣

森内閣をじっくり見つめよ
これが日本国民の象徴なのだ

先の総選挙は

平成の東京裁判に

なるべきだったのかもしれない。



小淵首相の逝去を受けて擁立された森喜朗氏が首相に就任して以来、失言を繰り返したのはご存知のとおり。最も波紋を広げた「神の国」発言や「教育勅語の真理」「国体」発言など、自らの首を絞めるかのような失言の連続。これは、韓国・北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)両首脳会談が行われたり、沖縄サミットが控えている重要な時期とは思えない、極めて危険な発言だった。ついに野党は内閣不信任案を提出し、6月25日に解散総選挙を行った。

しかし、今回の選挙も与党の裏、野党の与党への批判合戦に終始した感がある。投票率が史上2番目にの低さにとどまったのも、それが原因となったのかも知れない。ただ、筆者は「政治に無関心なのは政治家のせい」とも思わない。政治家はあくまでも国民の分身。今回誕生した第二次森内閣は、投票した人、しなかった人を含めた国民が選んだものなのだ。もう一度、森首相の発言の重さを考えて欲しい。戦時中に教育勅語を推奨した政府の人間が東京裁判でどうなったか? 以後、森首相が同じような過ちを犯したら、今度こそ国民は投票でハッキリと意思表示して欲しい。

京都府警までも不祥事!

パ○サ君を
誤認逮捕



免許証読みとり自販機が広まり



何故か自動車教習所が特需

酒類自動販売機

コンビニVS.小売店&自動販売機
酒類販売規制の切り札登場

酒類の自動販売機が、6月から全国一斉に撤去され始めた。これは酒類販売業者が未成年者の飲酒防止を目的に自主規制をはじめたもの。酒類メーカーは「自販機以外にもコンビニなどがあるし、売り上げへのマイナス影響は少ない」との見方が強く、すでに月桂冠も酒販店に斡旋していた自販機の撤去に乗り出した。しかし、自販機に大きく依存している小売店もあり、撤去はスムーズには進んでいないようだ。そんな今、長岡京市の自販機メーカーは免許証から生年月日を読み取り、20歳以上を確認できれば販売可能な自販機を開発し、人気を伸ばしつつある。

でも、よく考えて欲しい。仮に自動販売機の酒類販売が完全になっても、未成年者の飲酒に影響があるかはなほ疑問なのだ。小売店だけが青少年の飲酒の原因ではない! もし、本格的に酒類販売の規制を行うなら、本格的に国や地方自治体が規制に乗り出し、酒類の販売にIDカードの掲示を求めるなどして、フェアに行うべきだ。



文◎大塚 祐希

1968年大阪府八尾市生まれ。昔ながらの京都の民家を仕事場とするライター集団「大塚祐希事務所」の暫定CEO。「スポーツが好きだが自分ではやらない」「車が好きだが免許を持っていない」「酒が好きだが外で飲むと店で眠ってしまう」という数々のジレンマと戦いつつ、今日も愛機G4を駆る。



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、レコード、本、おもちや、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP◎<http://www.d1.dion.ne.jp/~ryoguchi/>